

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長、広報部主任
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒部主任、進路部主任、
広報部主任 各学年主任 計11名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者1名、教育関係者1名、地域団体代表2名、同窓会代表、後援会代表、
保護者代表、必要に応じて校長が指名する者 計10名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 令和 4年 6月25日（土） 内部委員3名、協議委員9名	・令和3年度学校経営報告・令和4年度学校経営計画 ・学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・評価委員選出
第2回 令和 4年11月19日（土） 内部委員3名、協議委員 7名	・令和5年度以降の入選の課題 ・都知事視察報告 ・外苑祭、夏季部活動合宿報告 外
第3回 令和 5年 2月18日（土） 内部委員3名、協議委員 9名	・学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・文化講演外の学校行事 ・副校長支援員、学校産婦人科医の配置 外

(2) 評価委員会

第1回 令和 4年11月19日（土） 内部委員2名、協議委員2名	・学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、 内容の検討
第2回 令和 4年 2月18日（土） 内部委員2名、協議委員2名	・学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、 意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

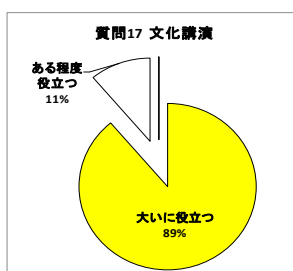
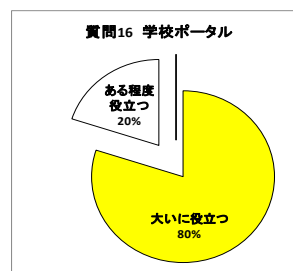
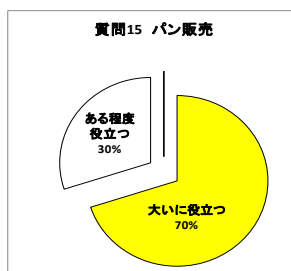
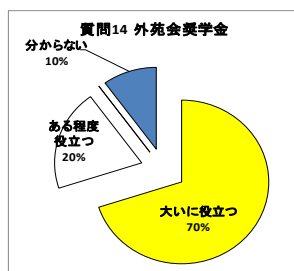
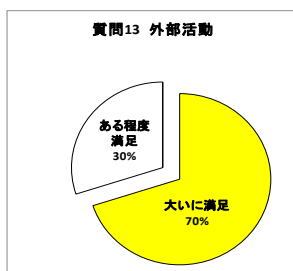
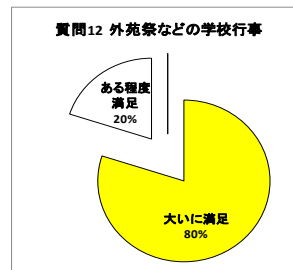
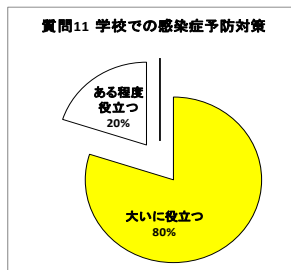
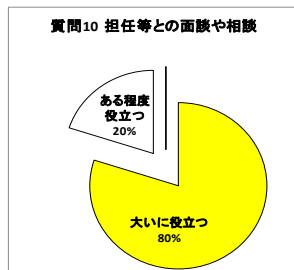
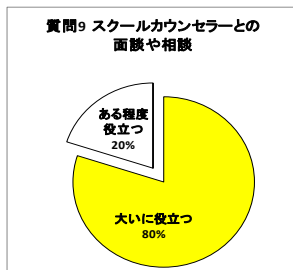
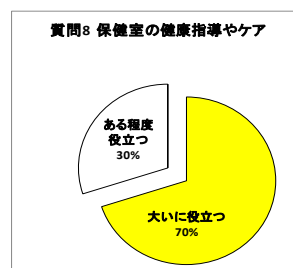
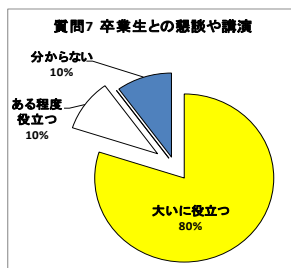
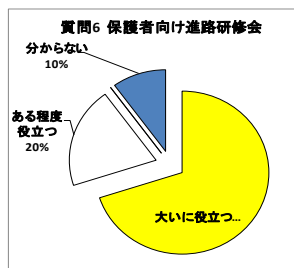
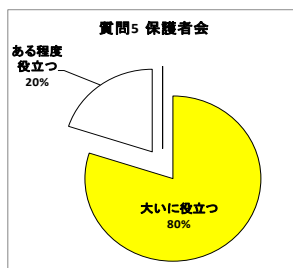
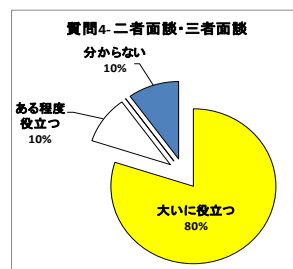
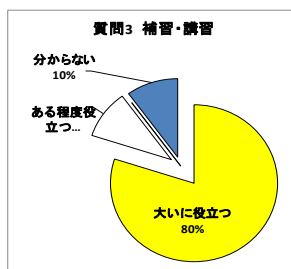
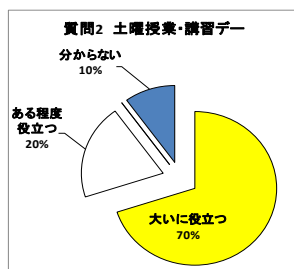
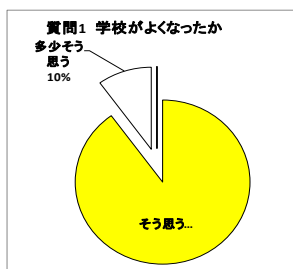
- ・実施時期： 令和4年11月下旬から令和5年2月上旬までの間
- ・対象・規模： 生徒・保護者 各832人、教職員58人、外部委員10名
- ・回答率： 生徒98%（814人）、保護者50%（417人）、
教職員100%（51人）外部委員100%（10名）

(3) 評価結果の概要

コロナ禍による教育活動の制限が続く中でも、感染症対策を行ったうえで、新しい形式で教育活動を展開することができ、また、対面やメディアにより情報発信を盛んに行ったことから、大変良い評価をいただいた。

令和4年度学校運営連絡協議会における学校評価

令和5年1月調査



○その他記述

・土曜授業について

賛否両論あると思うが、学びの貴重な機会であり、先生方の負担はあるだろうが、ぜひ続けてほしい。

・補習・講習について

先生方の質の高さと熱意に感謝の気持ちでいっぱいになる。青高ゼミナール、青高塾と呼ぶ保護者もいる。ぜひ続けてほしい。

・面談について

先生・生徒・親、それぞれの意識や知識により違いが生じる。少なくとも先生方には同等の思いを持ってもらいたい。

・保護者会について

進路研修会と内容が重なるという意見もあるが、出席できないこともあるので毎回うかがえることはありがたい。

・心身のケアについての担任との面談

先生による。

○学校をより良くするために

生徒の声、保護者の声、教育現場の先生の声、学校経営に関わる先生の声、それらすべての声の風通しを良くしておく**不断の努力が必要**だと常々思う。

生徒さんの努力(エネルギー)と先生方の努力(エネルギー)が結果に結びついているのかや疑問を感じる。1+1=2にしかなくなっていないのではないのか？1+1<2になるような相乗的効果が弱いのではないのか。相乗作用は人と人とのつながりから生まれると考えている。個人プレーでなく、**志を持った有志の集団プレー**となると、個々の力も予想以上に伸びることが期待できる。

学運協で校長先生や関係者からの話や学校便り、PTA広報誌、Twitter等を通じて、充実している様子が見える。卒業生の活用、地域資源の活用、進学指導重点校としての取組等、着実に成果をあげ、保護者の満足度も高いのではと感じる。HPを拝見し、**授業の満足度も高い評価だが、この評価をさらに高めることが大事**かと思う。

現在の取組を継続し、広報活動を充実させる。また、学校長のリーダーシップのもと、より質の高い教育活動を**全教職員が一丸となって取り組む姿勢が欠かせない**と思う。

コロナ対策は必要だが、早くコロナ前の学校に戻して、より活動的な青山高校になってもらいたい。

(1)在校生本位の学校運営の一層の促進。(2)適正で柔軟な学校運営と教職員の学校経営計画へのさらなる理解。(3)積極的で継続した情報発信。(4)**入学者選抜時点から大学入試を見据えた、より体系的な教育活動の展開**。(5)在校生に加え教職員のメンタルヘルスへの一層の配慮。

「よりよい学校」として目指す姿を**教職員・生徒で話し合える風通しの良い環境作り**。そしてよりよくしていくためのプロセスも共有していく。

10年間関わってきたが、**毎年どんどん良くなっていく**ので、生徒の保護者の信頼が厚いことを肌で感じた。さすが推薦人気が一番の学校だと思う。

青山高校の**様々な取組はもっと多くの保護者の皆さんに知ってもらい**、理解してもらいたい。様々な活動を知ってもらうためにサポートができればと感じる。学運協を通して、子供たちの学校生活をより良いものとしてもらえたことに感謝している。

先生方、後援会、外苑会、学運協の皆様**の継続したサポートは、生徒の皆さんの学校生活の大きな支え**になっていると思う。

(4) 協議会における主な意見

ア 第1回

- ・前田 俊秀協議員（青山外苑前商店街振興組合副会長）

ブラジル大使館でボサノバのイベントを4か所でやる予定。生徒さんの力を借りたい。人数を絞って、やりたいという生徒さんに深い仕事をやってもらいたい。

コロナやウクライナ戦争のせいで、インバウンドが減っている。ヨーロッパでは、自己責任がはっきりしている。国民のマジョリティが決意をもってコロナに立ち向かっている。経済・学業を止めていない。学校の現場でマスクが必要であるというエビデンスが示されていない。

会社がミャンマーにあり、政変があって帰国できない社員がいる。ミャンマーとのやりとりを生徒さんにも手伝ってもらいたい。問題意識をもって取り組むと人は伸びる。理系＋国際が青山高校の特徴なので、生徒さんにも受け入れられるのではないかな。

地域として手伝えるといい。オラクル社の社長も紹介できた。全社を挙げて地域ぐるみで青山高校のプレゼンスを高めていきたい。

- ・山中 一郎協議員（国立東京工業大学教授）

東工大フォーラムに青高卒業の学生を活用した。女子率が低く過ぎる。以前は2%だった。30～40%にもっていく方針。東大、京大の工学部は10数%。という趣旨なので、ぜひ女子生徒を送ってほしい。自分のアイデンティティを示せる場所であることを、女子生徒に分かってほしい。研究者として生きていける。男女平等は大事なポイントだ。生徒は努力している。レベルの高い方にシフトしていると思うが、その層の生徒が難関校に出願しているのか。気弱になったら負け。後ろを向いてはだめ。負けるかもしれないが、浪人で勝てるかもしれない。前を向く。科学者、技術者になりたいという意欲を育てる。キャンパスツアーで受験を決める。成績が悪くても目指す。前を向く。そういう雰囲気育てる。アメリカやヨーロッパでは、女性の科学者は当たり前。すごい人がいっぱいいる。生まれた時期の環境の影響が大きい。女子はデザイン系が強い。男子は集中型。どの大学でもいいから、女子に理系を選んでほしい。リケジョをやる予定。豊島岡女子、桜蔭は、その点並ではない。しっかりしている。入学してくる段階でポテンシャルが違う。能力を邪魔しない教師。何もしないこと。変に手を入れるとポテンシャルが発揮できなくなる。弱気にさせないのは、先生方の経験で。信頼できる先生は包容力があり、厚みがある。

- ・井上 一仁協議員（港区立青山小学校長）

音楽のCDを送ってもらい児童の刺激になった。今年度は、直接対面で交流したい。人間性を感じ取っていききたい。青高生は社会を背負って立つ人になる。交流を通して生徒に刺激を与えたい。地域として貢献したい。

- ・中田 和直協議員（港区立青山中学校長）

中学も移動教室ができるようになった。修学旅行にも行けた。しかし、マスクを外すことができない。外してくれない。難しくなっている。夏に向けてマスク対策が必要だ。1年生は青山、2年生は日比谷、3年生は都内私立高校の体験授業に参加し、刺激になっている。来年度、コミュニティスクールを創設する。生徒の触れ合い、憧れの先輩の姿を見せたい。先輩の話を聞くと刺激になる。

- ・横田 尚彦協議員（青山外苑前町会役員）

今年度は自治体のイベントをやるかもしれないが、意見が割れている。青山高校の援助がなければ元に戻せない。神社神輿、地元だけでやろうかという話もある。青高に援助をお願いしたい。

- ・鈴木 裕輔協議員（外苑会事務局長・名城大学准教授）

難関大を受けて当然という雰囲気がでてくるといい。地方は、首都圏、京阪からどうやって学生を集めるかが課題。推薦入試3割。名城大では指定校で入った生徒の成績不良が多い。私立大学では入学生のサポートを行って、脱落しないようにしている。推薦で入っている学生に学びの意欲をいかにもたせるかが課題。職人から技術者へ、問題の設定がないと解決しない。どうやって見出すか。

- ・山田 敦子協議員（後援会副理事長）

周囲の環境で勉強しなくなっていく。同じような芳しくない成績で東大を目指している。数値だけで進学させることは我が子にはしたくなかった。塾に通う生徒が多かった。レールに乗っか

っている。我が子は、友人と勉強していた。人間教育は友人と一緒に大切だ。受験せずに進学するのがいいことなのか。早稲田には推薦入学者が半分いる。一般入学者とは話が合わない。推薦合格後の1か月を活用してほしい。我が子は地方の国立大学に在籍し、就活中である。地方なのにオンライン授業になってしまった。意味があるのか。悩んでいる学生がいる。地方の国立を目指すモチベーションが下がってしまう。

・菅野 由里子協議員（臨床心理士・公認心理士）

理系の女子は増えた。工学部ではないが、医学部は増えた。東工大は数学・物理が跳びぬけてできている。女子は地方に行きたがらない。早慶は増える。青山学院。この地域が好き。女子が増えるとそうなる。部活、ラグビー部、15人を集めるのがたいへん。女子が多いとこのような部が成り立たなくなる。女子がダンス部にはいる。メンタル、女子が多いとリストカットが増える。総合高校は7割が女子で、リストカットやメンタル面の問題がおおい。拒食症、拒食症多い。母が娘に期待している。医学部進める。娘も反抗せずに従順、相談ごとを母が答える。女子が増えることはそういうこと。

・榊原 美佳協議員（PTA会長）

青高の保護者は意識が高い。駿台進路説明会の参加者が多い。体育祭の保護者の参加も、小学校の初めての運動会のように。ビデオを撮っている保護者が多い。我が子は理系を頑張りたい、数学が楽しいと言っている。理系の女子が増えてほしい。女子は真面目で、細かい作業が得意。社会に出て幅が広がる。女子の理系の割合を高めてほしい。通訳は今後なくなる職業。英語だけやって、英語だけ、論文は読めるが意味が分からない。数学の知識があればもっとよい。

イ 第2回

・井上 一仁協議員

進学指導重点校再指定おめでとうございます。学習だけではなく行事でも生徒の達成感を醸成し、充実させていこうという姿勢が評価できる。青山小学校も近隣の企業と活動している。学ばせてほしい。一月の学校連携行事（絵本の読み聞かせ）も楽しみである。

・中田 和直協議員

進学重点再指定おめでとうございます。教員の向く方向が同じと感じる。大切である。訪問授業でお世話になる。2年は日比谷高校、3年は先生が来てもらっている。1年は青山高校。勉強だけではなく、いろんな行事を通して成長する。高校受検がこれから。今年からESAT-Jの活用が始まる。

・横田 尚彦協議員

青山には七つの町会有る。コロナ化で祭礼行事を実施する、しないで半々に意見が分かれている。半数では円滑に実施できない。去年は、神輿をトラックで町内を回っただけであった。今年は青高の協力をお願いしたい。

・菅野 由里子協議員

小池知事の2度の訪問。生徒の都知事の質問への対応がすばらしい。北條先生の新聞記事。青山はすごいと感じる。女子化が進むと部活が心配。メンタル面、摂食障害も心配である。

・山田 敦子協議員

外苑祭を全クラスでやった、無事終わったことに驚き。気持ちを持ち上げるのが大変だったと思う。大きな自信になるのでは。心に傷をもっている子供が多いのではない。オンライン授業を一人で受けるよりははるかによい。進学実績が上がって感慨深い。発信力がある学校。ツイッターの更新、学校に来られない時も発信してくれている。話題になっている。

・鈴木 裕輔協議員

合宿、外苑祭ができたことはよいこと。小学校以来かもしれない。情報発信、好事例、当たり前のように感じるかもしれないが、そうではない。外部機関の活用も好事例である。実現まで大変な労力があつたことと思う。奨学金、来年以降は最低6名、増員も計画している。外苑会連携協定を作成中である。基礎学力、大学でも必要。推薦で入学した学生はToecが伸びない。二次まで頑張るということは重要。オンライン授業の活用が進んでくる。オンデマンドでもできるようになる。教職員のメンタルヘルスも重要である。「10年後」という校長の言葉はキーワードで

ある。長いスパンで学校の在り方を考えることが大切だ。

・榊原 美佳協議員

75 期生はコロナとともに3年間の高校生活を過ごした。PTA は、今年はほぼ例年通りできるようになったが、初めて取り組むことばかりで戸惑った。制限なくできたことはよかった。外苑祭、ポテンシャルの高さ、エネルギーを感じた。今学んでいることはなかなか学べるものではない。紙の削減。ポータルの評判がいい。イベントの出席があがっている。クイズ研究会、大躍進を何らかの形で評価してあげたい。

○質疑

Q:名城大学ではオンライン化が進むとのことだが、オンラインのメリットはどのような点があるのか。

A:通信制の大学と同じだが緩和される。オンデマンドで必要に応じて学べるようになる。長期欠席の生徒もオンデマンドで解決できるかもしれない。現在は試行。2024 年か 2025 年に本格導入されるかもしれない。

ウ 第3回

・前田 俊英協議員

1 年生は、なぜ傾向が変わっているのか。(模試の結果はこれまで入学後は必ず下がってきた。1 年生は、上がっている。しかも数学で。授業評価も 2、3 年生よりかなり辛口の評価であり、明らかにこれまでの傾向と異なっている。)

・山中 一郎協議員

力のある生徒が入るといい。もっと良くなると先生なんて関係ないと言い出す。生徒は先生の本性を見抜いている、見透かされている。生徒のレベルが変わったら、先生方も変わる必要がある。前と同じ事やっているとだめ。オンラインでやると学力がつかない。勉強したつもりになっているのではないか。自分でやらないと理解できない。見ているだけではだめ。生きたディカッション、対面でやることで力がつく。コロナ禍でこれが抜けている。東工大が女子枠を設けることへの批判が多い。批判者は受験者ではなく東工大学生。自分たちのプライドが傷つけられる。苦勞して入ったのに女子枠を作るとは何事か。世界的に見たら男女 50 対 50。東工大は先頭を切って女子枠を設ける。女子を伸ばす。能力のある女子をしっかり伸ばす。

・中田 和直協議員

推薦選抜で青山中から合格者が出て喜ばしい。新入生は、行事ができていない生徒達。港区では、一人 1 台端末はよく使っている。このような中学生が高校でどう伸びるのか。港区では 50%は私立に進学する。様々な生徒の実態があり、全員が満足できるような授業を実践するのは難しい。上は不満、下は難しい。学校は塾の復習の場になってしまう。Ict はコミュニケーションツール。連携協定、来年もよろしくお願いしたい。

・横田 尚彦協議員

3 年間行事ができていない。今年は大丈夫だろうかと心配している。学生時代、友達同士が教え合っていた。教えられるように勉強していた。オンラインだと教え合いができない。友達同士の関係が大切。

・鈴木 裕輔協議員

外苑会との調印式をよろしくお願いしたい。手を動かす教育。答案を見ると、いい教育を受けているかどうか分かる。口を動かす、頭を動かすことができれば上級学校でも通用する。ICT について、高校と大学と差がある。中堅、下位大学の ICT は厳しい。観点別評価。大学での評価は高すぎると指導が入る。一定の枠があると観点別に生きるのでは。会計年度職員は、学校オリジナルのものなのか、都としてやっているのか。(都の取り組みである。)生徒のメンタルヘルスに留意してほしい。

・山田 敦子協議員

活動の再開、よかった。心のケア。子どもの状況はいい方向にいつているのか。通えなくなった子、休んでいる間に北海道にいたとか、そういう話がある。直接的な体験に救われている。このような体験が大切か。見えないところで苦しんでいる生徒がいるのでは。友達との交流を通して社会性を身に付ける。ICT 化によって字を書くことが減っている。若いころにやったこ

とは忘れない。

・宮山 美和協議員（後援会理事長）

我が子は部活も行事もできなかった。学校は静かだった。今は、生徒たちの部活の声が聞こえてくるのは良い。羨ましい。知り合いの子供が青山を受検。いい学校だと勧めている。女子が増えることで施設は大丈夫か。（男女のバランスが取れた生徒募集を目指している。）

・榊原 美佳協議員

PTA でできたことがあったのでは。生徒の質が変わった。教育の機会が失われた生徒達だが、活動ができるようになってポテンシャルが伸びた。青山に入ってくる生徒たちを、意欲ある生徒を育ててほしい。子供たちの中に変化が起きた。

・菅野 由里子協議員

産婦人科の配置は大きい。摂食障害の生徒達、産婦人科なら相談しやすい。生理がない生徒に対応しやすい。東工大女子生徒多くなるとよい。3月の文化講演に笠井信輔氏が来ると聞いている。話が上手なので生徒によく伝わる。多くの人に聞いてもらいたい。You tube にアップしている。見てほしい。被災地教育にも力を入れている。

・山中 一郎協議員

入ってくる学生は中学でトップの生徒。入ってきてから落ちこぼれるのは仕方がない面もある。必ず分布する。学校全体のレベルが高い所だから、やむを得ない。それぞれの分野でトップを目指す。テストで下位をとることもある。トップも挫折する。中高では測れないものが、大人になると表れるものだ。

・山田 敦子協議員

成績が悪くてもみんなで上げていこう、頑張ろうと互いに分かり合える生徒達であってほしい。神宮外苑再開発の内容をどの程度把握しているのか。（明治神宮外苑の再開発は民間事業であるため、報道されている以上の情報はない。）

・前田 俊英協議員

令和5年は熊野神社の祭りが復活するのではないか。ボサノバのコンサート、生徒が全部やってくれた。PA、出演者への指示も。青高生の評判がよかった。映像を青高チャンネルに載せると聞いている。プロのアドバイスも有効だった。ブラジル大使館からボッサ青山の運営がよかったのでまたやってほしいと言われている。トルコ大使館の地震関係の窓口も行っているの、関心のある生徒がいれば案内してほしい。

・鈴木 裕輔協議員

外苑会、卒業生全員入会。発信力が素晴らしい。続けてほしい。文系、授業の質が高い。レベルが高いものをやっているの、大学入るとまた別のものが見えてくる。

・山田 敦子協議員

71期生の我が子は、青高時代の世界史のノートを大学でも活用している。コロナ禍により成人式ができなかった。

・校長

生徒の心のケアが重大な課題である。深刻な事案もある。見えていないところもある。家庭訪問や電話によるカウンセリングが必要だと考える。拒食症については改善した事案がある。77期生の変容の原因は、コロナ禍によるものなのか、隔年現象なのかは今後の分析を待ちたい。ちなみに、昨夏視察した桜蔭では、特別な進路指導は何もしていないと。

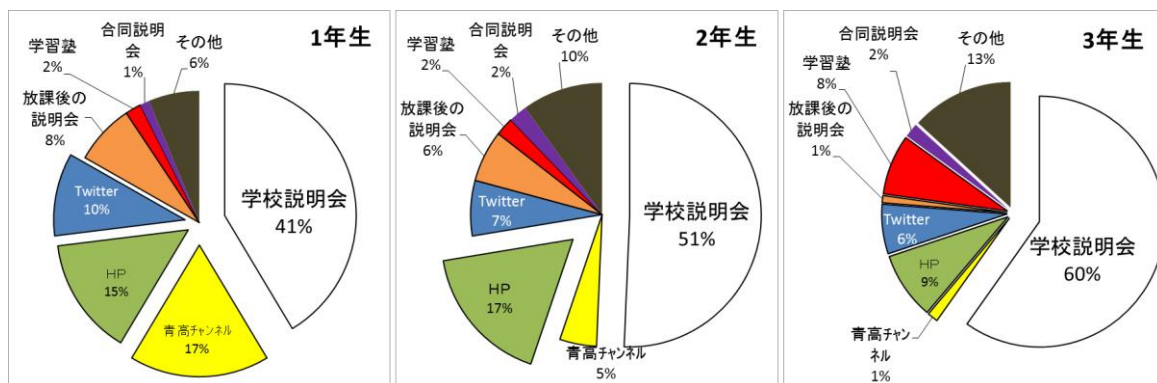
・山中 一郎協議員

頭のいい人は放っておく。努力して伸びる人を伸ばすことが大切だ。

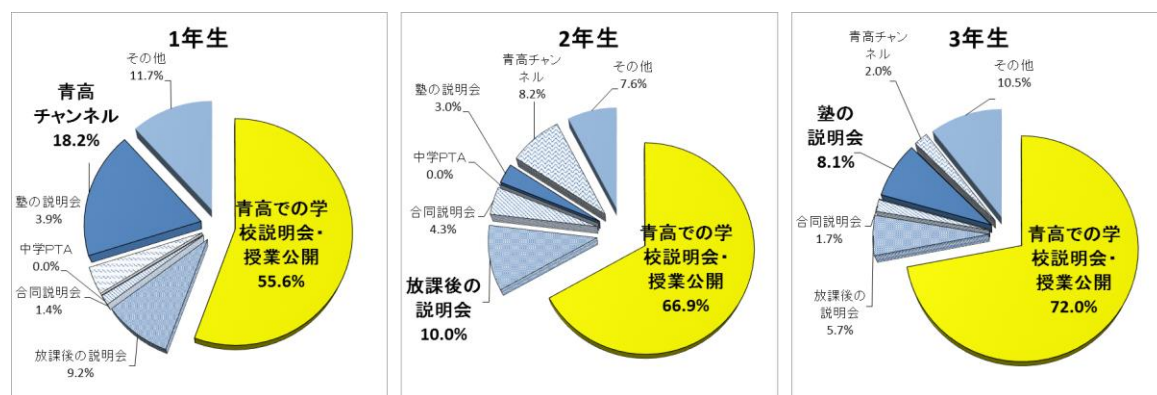
(5) 学校評価の結果分析・考察

ア. 志望の参考になったものは、コロナ禍によってSNS等への比重が高まっていることが窺える。

・保護者



・生徒



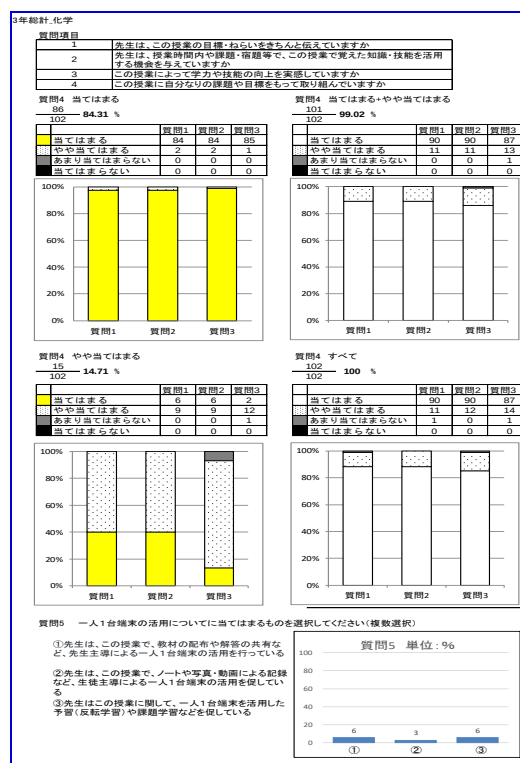
イ. その他の分析結果については、学校ホームページに公開

(6) 生徒による授業評価

生徒による授業評価結果は、科目ごとに学校ホームページに公開するとともに、教員個票を、時間講師を含め全教員に配布して、評価に値する点、改善すべき点を具体的に指導した。令和2年度に校長決定した「青山高校における教育活動のICT化推進の基本方針」に基づいて、一人1台端末の活用を今後もさらに進めていく。

右図は、最も指導力の高い教員が受け持つ3年生の化学の科目の評価結果である。他の教員の模範となる見事な内容であった。教員が作問力を競い合う土壌がようやく醸成され、定着しつつある現在、こうしたエビデンスに基づく教員への指導はもっとも効果的な方法の一つだと言える。今年度は、一人1台端末の活用度合いも調査した。右図の場合、毎時間実験の授業のため、一人1台端末の活用はあまり見られない。

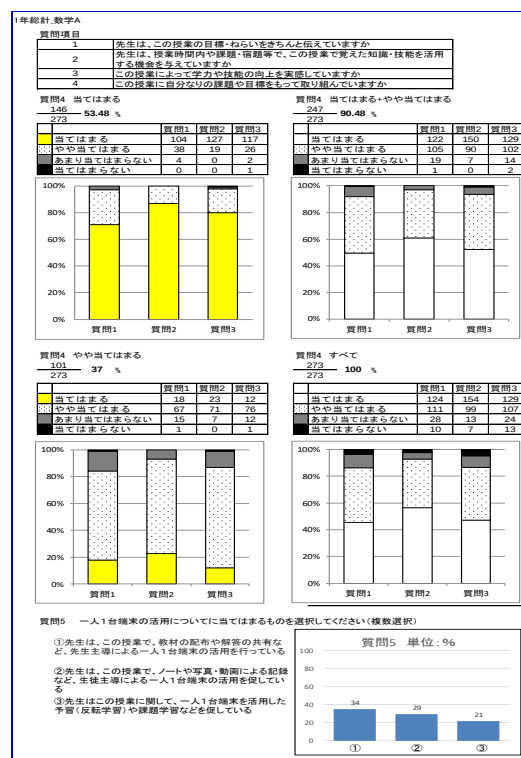
一方、次のページの図に示すとおり、1年生（77期生）は、これまでと異なる結果となった。すべての教科・科目において、「目的意識をもって授業に臨む」



割合がほぼ半減し、ねらいの理解度、学習した内容の活用の機会の実感、学力向上の実感の各項目も同様の結果となった。入学してくる生徒の質が年々変化してきていると感覚的には理解していたが、今年度初めてエビデンスとして表れた。いよいよ学習指導の在り方が問われる状況になった。この結果を受けて、各教科・学年に状況の分析と学習指導の在り方を検討するよう指示したところである。

一方、一人1台端末の活用の度合いは、右図の数学Aは、数学Iに次いで高い割合であった。最も活用の度合いが高い科目は言語文化であったが、授業評価の結果は数学Aより低かった。

このことから、授業評価結果と一人1台端末の活用の度合いは必ずしも一致せず、やはり教員の指導力に拠るものであることが窺える。新たなフェーズに入った青山高校における学習指導の在り方について各教科・学年での議論を活性化していかなければならない。同時に、一人1台端末の導入が令和5年度には完成年度を迎えることから、教科等の特性に応じた効果的な活用方法を確立していく段階を迎える。



4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

エビデンスに基づいた改革は着実に成果を挙げている。調査結果の全教職員での共有を出発点とし、引き続き課題の具体的な改善に向けて取り組んでいく。また、自由記述に見られる不満や要望、提案についても、優先順位を付けつつも、対応策を令和5年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ア. 生徒の実態に応じた教育活動の展開
- イ. ICT機器の効果的な活用方法の確立
- ウ. 感染症の流行下での教育活動の工夫
- エ. 生徒の心身の悩みの解決に資するよう、教育相談等の一層の充実

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) トイレの悪臭対策、個別空調の設置拡大、グラウンドの整備等、教育環境の整備を一層推進する。
- (2) 大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成、課題のある授業者への指導を計画的に実施していく。
- (3) スクールカウンセラーや特別支援学校の特別支援教育コーディネーターと連携し、いじめ対策委員会や特別支援委員会を定期的を開催するとともに、企画調整会議や学年会等において生徒情報を詳細に共有するなどして、いじめの未然防止や生徒の心身の健康の増進を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 10名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
9	1	0	0	0	0	0

【参考】

令和3年度

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
8	2	0	0	0	0	0

令和2年度

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	3	2	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議0回、企画調整会議0回

【成果】コロナ禍により実績がなかった。

以上